

仮設住宅へ 腹話術 笑いを届け激励

被災者を励まし 元気づけ 笑いに 包まれて



9月7日穴水町由比ヶ丘陸上競技場仮設住宅、8日羽咋市眉上台仮設住宅の各集会所で、神奈川県川崎市在住のプロの腹話術師・しろたにまもるさんとしろたにさん率いる「腹話術の会きずな」のメンバー7名が、激励公演を行いました。穴水町では50人以上、羽咋市では60人以上の被災者が、反戦平和とユーモアあふれる語りに引き込まれ、会場は拍手と笑いにつつまれました。

しろたにさんの相棒「ゴローちゃん」との掛け合いで、「笑うと病気が逃げるって言うんだよ、皆さんにどうしても言いたい。長生きしてくださいね」と語ります。

全国の通算公演数は4880回を数え、プロの腹話術師として、東京・浅草の寄席にレギュラー出演もしています。さらに、地元川崎を中心に、腹話術教室を開き、指導もされています。

ロシアによるウクライナ侵攻の時には、抗議活動を行い「人形も黙ってはいられない」と反戦のメッセージを掲げ、「ゴローちゃん」を手に腹話術の仲間と反戦平和の街頭行動もされています。

しろたにさんは災害被災地のボランティア公演を続けてきておられ、阪神淡路大震災や、東日本大震災でも各地の避難所を訪れ、激励公演を行ってきました。

この能登半島地震被災地公演は、しろたにさんからの申し出で実現したものです。

しろたにさんは「被災から立ち直る力は、何よりも行政の支援と被災者に希望を持つてもらうことです。その助けになればと思います。笑って心に栄養を送らないといけないですね。今日も笑って喜ぶ、皆さんの顔をたくさん見ることができて、また元気をもらいました」と語っていました。

羽咋市で被災された家は全壊、仮設暮らしをされている西沢雅子さんは、「多彩な腹話術に風船のパフォーマンス、子どもから大人まで楽しんでいました」と話し、「『こんな仮設で身近にプロの腹話術を見られるなんて、久々に大声で笑って元気が出た』と、皆さんに大変喜んでもらい、元気になってもらえた。後日会った何人の方からも、とても良かったと言っていた。公演に誘ったものとして、仮設入居者の人たちの交流の場ともなりとても嬉しい」と話されていました。

主な受賞経歴

京浜協同劇団として、1981年・川崎市文化賞、1994年・神奈川県地域社会事業賞、1999年・神奈川県文化賞など受賞多数。

「集落を復興したい」お寺さんの思いに共感

9月11日、さいたま市からのボランティアのHさんと事務局のメンバー計4名で、珠洲市川浦集落の草刈りに行ってきました。

草刈り機を使うのは久々という方や初めての方を含め、集落のお寺・等覚寺の住職さんも一緒に大奮闘。



3時間で約100㎡の草刈りに汗を流しました。30戸ほどの集落のほとんどの家が全壊もしくは半壊です。等覚寺は集落から20メートルほどの高台に建っていますが、鐘撞堂、本堂、住居も大きな被害を受けています。「集落に人が少なくなってしまうが、集落復興に向けて道沿いを草ぼうぼうにはしたくない」との住職さんの思いに共感してのボランティア協力です。

緊急にご協力ください

お米が不足

ボランティア活動に
支障がでています

全国から 生活支援物資をお寄せください ボランティア活動にぜひお越しください